

Theme Symposium | 学校保健体育研究部会 | 【課題B】保健体育授業をいかに良質なものにするか

Considering quality health and physical education classes and their learning content: Teachers' quality and abilities for a rich sport life of students

Chair: Yukinori SAWAE, Yuichi Hara

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RY203 (良心館2階R Y 2 0 3 番教室)

子どもたちの豊かなスポーツライフを支えるために求められる良質な保健体育授業とは何かを検討してきた過去2回のシンポジウムを踏まえて、今回は、それを実現へと導く教師が身に付けるべき資質・能力について議論することにした。

具体的には、既存のスポーツや知識を伝えるだけではなく、さまざまな社会情勢に応じて対応できる力、つまり運動やスポーツ、健康な生活を「創る」力や、いろいろな人の力と協調する「つながる」力が求められるという前提のもと、ご自身の教師経験と若手育成の実務経験から中村氏（京都市立下京中学校）、教員養成課程に関わる三田部氏（筑波大学）から、教員をめざす学生の課題を踏まえ、特に運動やスポーツを「創る」力を育成するうえでの取り組みについて、学校体育現場への豊富な助言経験をもつ宮口氏（石川県立大学）から、スポーツ科学という学際的な知見や人材が体育授業とどう「つながる」ことができるかについて話題提供していただくことにした。

これらの話題をもとに、子どもたちの豊かなスポーツライフを支える教師の資質とは何かを、教師教育という観点から議論してみたい。

[学校保健体育-SB-1]Current status of efforts to connect schools inside and outside and what is expected of teachers

*Toshiyuki Nakamura¹ (1. Shimogyo Junior High School)

<演者略歴>

京都市立中学校保健体育科教員。2013年より京都府・京都市中学校体育連盟常任理事。2022年より京都府・京都市中学校体育連盟柔道専門部委員長。

学校体育・保健体育では、子どもたちの豊かなスポーツライフに向けた取り組みを進めることが求められているが、子どもたちに伝えるべき、子どもたちが身につけるべきものとして、何が必要なのだろうか。これからの学校体育・保健体育のあり方についていくつかの事例を交えて考えたことについて述べる。特に、現在の学校現場では、ミドルリーダー世代の教員の不足といった現状のなかで、若手教員の育成が喫緊の課題とされている。そのなか、これまでの「先輩の背中を見て学ぶ」といったスタイルから、「先輩教員と一緒に学ぶ」というスタイルで実践のスタイルが移り変わっている現状がある。こうした現状のなかで、子どもたちにとって意味のある実践を実現するためには、教師と学校外が豊かにつながっていくことが求められる。その点を含めて、学校内外をつなぐ取り組みの現状と教師に求められる力について考えてみたことを述べる。このような取り組みを、良質な保健体育の授業につなげ、子どもたちの豊かなスポーツライフを実現していきたい。